

JR八木駅



活緑クラブ 八木 眞 議員

### 新市建設画(合併時)と総合振興計画に整合性はあるのか

新市建設画と振興計画に整合性はある **市長**

**問** 旧4町7大施策を基本として合併したが、過去2年間の施策、今後の計画をみると、いろいろな不平等がある。象徴的な例がエレベーターもない八木駅である。中心市街地として旧園部の7大施策はほぼ完成したが、他の今後の計画には予算もついでない。この地域の森林の重要性は市長の認識のとおりであるが、このたびのNPOとの「協働事業」モデルフォレストづくりに事務費などの

経費が計上されていない。総合振興計画の事業計画では、子育て支援事業は今後3年間今までどおり予算が計上されているが、この度の条例改正により削減される。ダイオキシン漏洩という重大な環境問題を発生させながら、今後の一般廃棄物の処理計画の対策や研究費すら計上していない。これらの根本的問題に触れない振興計画は答弁の基礎とすべき土台ともなっていないのではないか。財政

健全化法に基づく総合振興計画は何より財源の確保が重要である。住民の将来的財政負担度最悪(88町中86番目)の旧園部町でこれだけのビッグプロジェクトが進められたのはカリスマ的町長の手腕であったと考える。その事業の継続は至難のことである。自ずから総合計画は合併時の新市計画と大きく変わらざるを得ない。あえて整合性を求めることで大きな矛盾が出ている。まずは財源の確

保が最優先課題であり市長、副市長は庁舎内で財源を探すより外へ出て国や府にこの地域の投資や財源移譲を強力に訴えるべきだと考えるがいかがお考えか。  
**市長** 新市計画と振興計画に整合性はある。八木駅は本郷区画整理とあわせて考える。モデルフォレスト計画は企業の負担で行う。環境汚染問題は重要だ、今後考える。財源獲得は今以上に努力する。市民協働事業は今後も進める。

見通しを悪くしている木々「たてかべ」



丹政クラブ 仲村 学 議員

### 市政懇談会の意見はどういのか

意見を公表し、施策に反映する **市長**

**問** 市政懇談会での内容の公表と市民の方々の意見の返答は、また、意見を今後の施策にどのように反映するのか。  
**市長** 現在、頂いた意見や提言の精査を行っている。具体的にお答えしなければならぬことは、広報紙やホームページ等を通じて行う。また、日頃賜っているご意見等も十分踏まえ、今後の行政評価等にかし、施策に反映する。

**公共交通の格差是正を**  
**問** 現在、園部以北の列車本数は、半分以上である。不便が故に止む無く園部駅利用の方もおられると考える。同じ市に住みながら、不自由な生活を強いられている。本数増強を強く求める。また、利用者の実態調査と本数の少なさをバスでフォローすることができないか。  
**市長** 平成22年春の園部までの複線化の中で

園部以北のダイヤ改正が伴ってくるとも思われるので、より強く要望していく。利用形態等の調査も課題として行っていく必要があると考えている。バスは現在、通学が基本であり、検討課題である。今後、抜本的に構築していく。  
**問** 「たてかべ」は河川に根付いた木々が成長し、JR鉄橋周辺道路の見通しを悪くしている。早期伐採を求める。

**市長** 早急に対応していくことが肝要である。  
**学力テストの公表は**  
**問** テストには税金が使われている。結果を公表するべきでは。  
**教育長** 結果については過度な競争につながらないよう、特段の配慮が必要であり、個々の市町村名・学校名を明らかにした公表は行わない。

雑草が茂る胡麻川上流部



活緑クラブ 松尾 武治 議員

### バラ色の合併、3年目で財政難

合併直後の財政需要で予算規模が拡大 **市長**

**問** 合併協議で示す数値と比較すると地方交付税・市税を合わせると計画と同様な推移を示している。扶助費の増加は、制度変更によるもので、府の支出金も増加。急激に進めた本町区画整理事業、地域情報基盤整備事業、防災無線、市の財源が100%必要な工場誘致奨励金などが原因と考える。一方では補助金等の削減による事業費の削減が公債比率に

影響し市政を圧迫する。貴重な財源である国保調整交付金(約5千万円)が不交付になるなど、国とのパイプを切った市政運営が原因と考える。市長の見解を伺う。  
**市長** 地域情報基盤整備事業、防災無線は新市計画に基づき実施した。事業の実施には有利な補助金、交付税措置のある有利な起債の選択も重要と考える。工場誘致奨励金は、長期的な観点から効果

のある事業と考える。国とのパイプは切ったとは考えていない。  
**市民部長** 18年度の国保調整交付金は国への要請のなかで交付をされたが、19年度は国への要請はしなかった。  
**放置された胡麻川上流部の治水対策**  
**問** 宅地造成による農地・山林の開発で保水能力が低下し、豪雨による影響で道路までも浸水する。また、上流部の広野を含めた地域

の治水対策は全く未整備で、市民の安全・安心が奪われる。市長の見解を伺う。  
**市長** 下保野田地域より上流部分は未改修で、土砂の堆積、雑草が茂り通水断面が確保されない事を確認。今秋以降から浚渫を実施する。  
**土木建設部長** 浚渫は3年計画で実施。京都府の管理河川より上流部も今後検討していく必要がある。

市民協働推進プロジェクト会議



日本共産党・住民協働市会議員団 高野 美好 議員

### 市民協働をどう進めるのか

「住民参加条例」の制定を **市長**

**問** 市政懇談会で、総合振興計画実現のために「市民と共に築くまちづくり」すなわち「市民との協働」を提言され、「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」を発足させたこと、自らも委員として参加し、議論しようとしてきているのか。また、市民協働は市長としてどうあるべきと考えているのか。  
**市長** 協働の概念、と

りくみの方向性を示す「住民参加条例」の制定を考えている。その前段階として委員会を組織したが、私は参画していない。住民協働の考え方は多種多様である。委員会と連携しながら具体的な施策を進めていきたい。  
**子育て支援事業削減より副市長・参与の縮減を**  
**問** 私は早くから「財政が厳しい町同士が、いくら合併しても財政は豊かにならない」と

言い続けてきた。最近では、合併を推進してきた人たちが「こんなはずではなかった。思惑とは違う」との声が出始めている。「子育て支援事業」等の削減案が提案されているが、この事業は、全国に誇れる施策として、市民からも高い評価を得ている。つまり、厳しい財政のもとでも、他の無駄な支出を抑えて存続・発展させるべき、優先度の高い施策であ

り継続すべきである。  
市政規模に見合わない副市長2人、縮小を余儀なくされている総合支所の参与について、削減の考えはないか。  
**市長** 子育て支援という総合的な観点に立つて、制度の見直しを提案している。副市長・参与については、現時点において削減する考えはない。